

高齢者入所施設における園芸療法

森かほる¹ 青木弘美² 進藤智香³ 松本むつみ⁴ 山本美津江⁵

¹ 社会福祉法人敬寿会特別養護老人ホームしかまの里

² 医療法人社団伍仁会介護老人福祉施設いつでも夢を ³ 社会福祉法人清章福祉会清住園

⁴ 医療法人社団山中医院グループホームやまなか

⁵ 特定非営利活動法人淡路島シャロームの会グループホームくるま花木

【概要】

1 施設の特徴

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などがあり、入所施設は、対象者にとって生活の場である。

2 施設利用者の特徴

高齢者で要介護認定を受け、自身の身の回りのことに介護を必要とされ、居宅においての生活が困難とされる方。

3 園芸療法対象者の特徴

(疾患、障害) 認知症、脳血管障害、リュウマチなど。

(個人因子) 花や植物が好きの方、好きだった方、他のレクリエーションなどに参加が難しい方、戸外などで活動性を高めたい方など。

4 園芸療法目標

日常生活における自律の維持・改善のため、精神・心理状態の維持・改善/身体機能の維持・改善/コミュニケーション能力など社会性の維持、があげられる。

5 評価方法

観察記録、淡路式園芸療法評価表(AHTAS)、認知症高齢者の生活の質尺度(QOL-D)、改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)

6 活動形態、頻度 (修了生のアンケート調査)

| 常勤 | 非常勤 | 兼務 | 分野詳細(入所) | 実施形態 個別 | 頻度 | 実施形態 集団 | 頻度 | 人数 |
|----|-----|---------|----------|------------|-----|------------|-------|---------------|
| ○ | | 介護職 | 特養 | 非実施 | | 実施 | 月1 | 5人以上 10人未満 |
| ○ | | 介護職 | | 非実施 | | 実施 | 週1~2 | |
| ○ | | 介護職 | 特養 | 実施 | | 実施 | | |
| ○ | | 介護職 | GH | 非実施 | | 実施 | 不定期 | |
| ○ | | 生活相談員 | 特養 | 非実施 | | 実施 | 月1 | |
| ○ | | 看護師 | 特養 | 実施 | 不定期 | 実施 | 週4 | |
| ○ | | アクティビティ | 有料 | 実施 | 月1 | 実施 | 月3 | |
| ○ | | アクティビティ | 有料 | 実施 | 週5 | 実施 | 週2、月6 | |
| | ○ | | 有料 | 非実施 | | 実施 | 月1~2 | |
| | ○ | | 特養 | 非実施 | | 実施 | 週1 | |
| | ○ | | 特養 | 非実施 | | 実施 | 月5 | |
| | ○ | | 特養 | 非実施 | | 実施 | 月1 | |

7 プログラム内容 (例)

季節感を取り入れ、施設的环境を考えながらプログラム作成をおこなっている。

| | 春 | 夏 | 秋 | 冬 |
|----|-----------------|--------------------|-----------------------------|---------------------------|
| 屋外 | 夏の花の種まき 植え付け | 夏野菜の収穫 花の管理 | 春の花の種まき 植え付け サツマイモの収穫 | 体調管理面でほとんど実施されず |
| 屋内 | 押し花 5月の節句飾り | アレンジメント 収穫野菜の調理 | スキのフクロウ 収穫野菜の調理 | クリスマスツリー お正月飾り 節分飾り |

8 主な成果

一日を室内で過ごすことが当たり前の施設生活に於いて、外に目を向け、屋外に出る機会を作る園芸療法は、季節や行事についての会話が自然に生まれる。このことは、見当識に働きかけ、認知機能の活性化や、社会性の維持と低下予防につながる。又、高齢者の豊かな人生経験を聞き出すことは、「その人らしく生きる。」をサポートする職員の援助にも役立っている。

個別では、日々の植物の世話を継続的に行うことで、植物の成長を楽しみ、時間の流れを感じ、基本的な生活のリズムを取り戻した事例もあった。園芸療法は身体感覚に支えられた効果がみられ、施設生活における安心感が増し、落ち着いた生活を送ることに繋がりがやすい。

花壇などの花がきれいに咲いて、施設全体の景観がよくなり地域貢献になっている。

9 課題と展望

介護保険制度上、園芸療法では介護報酬を得ることが難しい。介護報酬を得られなくても園芸療法を実施導入することによって、どの様に施設にメリットがあるかを発信していく必要がある。

【事例報告】 寄植えをきっかけに帰宅願望が 軽減された事例

森かほる
社会福祉法人敬寿会
特別養護老人ホームしかまの里

1 施設紹介

概要 姫路城の南東部に位置し、田園風景の中に10年前に建てられた特別養護老人ホーム。

特別養護老人ホーム70名、ショートステイ10名、第1デイサービス40名、第2デイサービス20名、ケアプランセンター、在宅介護支援センター。

平成23年4月より、以前介護職として勤務していた筆者が、園芸療法課程修了に伴い、園芸療法士として復職。

園芸療法

| 曜日 | フロア | 活動時間 | 活動内容 |
|----|------|------------|-----------|
| 月 | 特養2階 | 13時～17時30分 | 季節の花の種まき |
| 火 | 特養3階 | 13時～17時30分 | 苗の植え付け |
| 水 | 第1デイ | 13時～17時30分 | 野菜の収穫 |
| 木 | 第2デイ | 9時～12時 | 植物利用のクラフト |
| 金 | 花壇・畑 | 一日環境整備 | 収穫野菜の調理 |

*活動時間は、準備、片づけ、日常管理、記録を含む。(実質活動時間 45分～1時間)

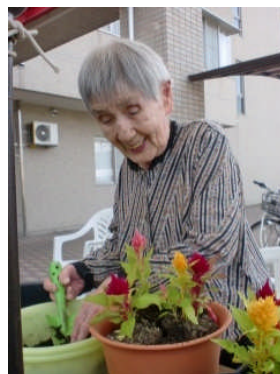
園芸活動参加者：1～5人、集団活動：オープン

2 症例紹介

A氏。80歳代後半。女性。要介護4。

病名：アルツハイマー型認知症

入所までの経緯：性格は、社交的で几帳面。趣味は、花、舞踊、書道、水墨画、ゲートボール(審判も経験)、グランドゴルフと多趣味。80歳代前半にアルツハイマー型認知症と診断



を受ける。デイサービスを利用しながら主人(現在、他の特養入所)と生活をしていましたが、主人への浮気妄想が始まる。B精神科受診。グループホームに入所となる。夜間に大声を出し他の利用者からクレ

ームが出る。再度、B精神科受診となり、3年前から当特養に入所となる。

3 症例の施設生活の様子

食事後の排泄、臥床介助に職員が動いていると立ち上がり歩き始める(歩行見守りが必要)。目的を尋ねると「トイレに行く。」と答える。トイレを済ませたことを伝えると「そうか!」と椅子に座る。帰宅願望状態になると「いいや、帰るんや!」と声掛けがかえって不穏の増幅するため、職員はしばらく一緒に歩き不穏の軽減を図っている。

4 園芸療法活動の様子から(ケイトウ寄せ植え)

「ケイトウや、この色好きや!」と苗を選び植木鉢に入れ植え替える。腕の可動域が狭い為、材料の配置を注意して置くなど、見守りが必要。

作業をしながら家での園芸についてなど色々な話をする。出来上がると「綺麗に出来た。」と手をたたいて喜ぶ。園芸療法士が「綺麗ですね!」と共感すると「は、は、は…!」と大きく声を上げ笑う。フロアに寄せ植えを持っていき、職員にケイトウの色を選んだ様子など伝える。居室近くのベランダに他の参加者の寄せ植えと一緒に置き、環境の改善につなげる。

翌日、椅子に腰かけて昨日植えた花を見ている。職員から「落ち着いて座っておられます。」と不穏軽減の効果を聞く。帰宅願望状態時も寄せ植えを眺めながら寄り添うことで不穏時間が短くなっている。職員から「居室からも花が見えるようになったらさらによいのでは」との声が出る。

5 結果と考察

落ち着いて花を見ているのは、職員の声掛けにより昨日の記憶が継続されていることであり、自身が植えた花がきれいに咲いていることに、喜びを感じている証拠と思われる。

自ら作った寄せ植えは、綺麗に咲き、自信と喜びを感じながら、関心のあるものと向き合う時間を作ったことで、不穏を軽減したと考える。又、寄せ植えを介しての職員の声掛けは、心に響き易かったと考える。